

1 学校教育目標

考える子 思いやりのある子 鍛える子 よく働く子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	「子供が大切にされる学校」＝「信頼される学校」である ・子供の知を大切にする学校（学力定着と向上、自らわかる喜びと学ぶ意欲の達成） ・子供の徳を大切にする学校（豊かな心、思いやりの心、いじめを起こさない心の体得） ・子供の体を大切にする学校（たくましい体、自ら鍛える意欲、心身ともに健やかに育成）
○児童・生徒像	・考 え る 子（基礎的基本的な学力と自ら学ぶ力や判断力を身に付けた子） ・思 い や り の あ る 子（多様な考えを認め合い、他を思いやる心を身に付けた子） ・鍛 え る 子（運動に親しみ、心身を鍛え、健康で安全な生活を目指す子） ・よ く 働 く 子（自己責任を果たす態度や協力する態度を身に付けた子）
○教師像	・社会人として常識のある教師（服務に厳しく、誰からも信頼される存在） ・教育公務員として専門性のある教師（児童理解、教材研究、指導技術を追究する存在） ・教育愛と使命感のある教師（特別支援教育を理解し、推進できる存在）

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

- 板書方法の改善（共書きの習慣化）や授業終末の「学びの振り返り」など、基礎学力定着の基盤となる「言葉の力（＝文章を正しく読む力）」の育成に向けて授業方法の改善に取り組み、それらが定着しつつあります。引き続き各教科を通して「言葉の力」の育成に取り組むとともに、研究授業を中心とする国語の授業改善、読書指導の充実を図ります。
- 足立区や東京都、全国の学力調査結果の分析に基づいて、児童がつまずきやすい学習内容の指導方法工夫・改善を図ります。SP表を活用し、①多くの児童がつまずく学習内容、②特別な学習支援が必要な児童を把握し、学校全体で組織的・計画的に基礎的学習内容の定着を進めていきます。
- 各教科の授業・学級経営・学校行事の充実を通して、自己肯定感・自己有用感の向上に取り組みます。「よりよい学校生活と友達づくりのためのアンケート調査（hyper-QU）」の分析結果を学級経営に有効活用します。
- 校舎の内装更新や校庭の芝生化工事等が予定されている。体育等の指導法の工夫等を通して、児童の体力維持増進とケガの防止に取り組む。
- 保護者・地域との連携・協力の在り方を工夫し、開かれた学校づくりに努めます。学校ホームページをよりアクセスしやすいメディアに改善するとともに、学校メール配信システムを有効に活用し、保護者との協力関係を強化します。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R1	R2	R3	R4	R5
1	学力向上アクションプラン(基礎基本の定着を図り、確かな学力を身に付ける)	◎	◎	◎	◎	◎

2	心の健康づくり(心も体も健全育成を図る)	◎	◎	◎	○	○
3	体の健康づくり(心も体も健全育成を図る)	○	○	○	◎	○

## 5 令和3年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)	実施結果 (通過率結果)	コメント・課題			達成度 ◎○△●		
国語・算数の基礎的・基本的な学習内容の定着		令和4年2月予備調査(現学年内容) 目標値の達成率 全学年 国語 80%以上 算数 80%以上	2月実施予備調査の達成率 学校全体 国語 71.7% 算数 76.6%	言葉の力の育成とともに、個の躰きに応じた指導及び家庭学習の充実を図る必要がある。社会状況にかかわらず、持続可能な補習指導の在り方を検討する必要がある。			△		
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象・実施教科	頻度・実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1	言葉の力を育てる指導の充実	全学年・全教科	通年	・全教員による共書き板書 ・指示語の確認、言い換え、説明、要約等文の意味を正しく掴むためのワンポイント国語指導を国語以外の教科でも実施。	管理職による授業観察と指導・助言	区学力調査国語と算数で「応用」問題の達成率を足立区平均以上とする。	・各教科で共書き板書完全実施。 ・国語、算数で応用的問題の達成に課題が残った。	・つなぎ言葉一覧表を作成し国語を中心に活用している。	○
2	読書活動の充実	全学年・全教科	通年	・学校図書館司書・図書館支援員・国語部教員が読書環境及び読書行事の充実を図る。調べる学習コンクール3～6年生で参加	・児童の読書量 ・調べる学習コンクール	・学校図書館の貸し出し図書 の冊数 ・コンクールへの出品数	・6月・11月読書旬間実施(計6週間) 貸出冊数学年間の差異が課題。 ・調べる学習コンクール3年生以上全員作成計7名出品。	・第二図書室が完成休み時間など活用 ・図書貸出は高学年が課題。次年度は達成目標を冊数から良質な選書を踏まえた指標へと変更する。	○

3	朝学習 パワーアップタイム	全学年 言葉遊び・ 国語・算数	通年 週3回 (火・ 水・金) 8時25 分 ～8時 40分	【指導体制】担任・専科教員 【取組のねらい】学習に楽し さを感じさせるとともに、 学習内容の定着を図る。 【使用教材】各学年で年度当 初検討する。「言葉の力」 を高める学習活動や教材。 ・カリキュラムに基づく全学 級完全実施	・学力向上委 員会による カリキュラ ム開発)と 実施 ・各教室で管 理職等によ る観察と確 認	カリキュラムに 準拠した内容で の実施75%以上	・専科協力体制確立 ・年間にわたり、国 語教科書の繰り返し 音読・活用型ドリル を完全実施。 ・つなぎ言葉一覧表 を作成・活用(再掲)。	・活用型問題の習熟 度個人差に課題あり。 ・次年度は朝時間帯 のタイムスケジュール を徹底し、パワー アップタイム(15分 間)確保を確実にす る。	○
4	放課後学習	区学力調査 等で目標値 未通過の児 童(4層分析 のC層相当) 国語・算数	通年 週3回 15時20 分から (低学 年は下 校指導 後から) 25～40 分間程 度	【指導体制】月・金は学年体 制、火・木は各学級 学年担当の専科教員が入 り担任不在時カバーする 【取組のねらい】学習のつま ずき解消 【使用教材】eライブラリー 等を活用し、児童のつま ずき解消に適した教材を準備する。	単元末ワーク テスト再テ スト	正答率85%以上	C層児童は目標を達成した。D層児童は目標を未達成	・専科教員支援のもと学年学級で実施したが、休校措置等により回数確保は困難だった。 ・個別指導におけるAIドリルやeライブラリー等を活用した指導の最適化が課題	△
5	かけ算九九 テスト	2年生～6年 生 算数	年間 2回7月 と12月	【指導体制】担任 【取組のねらい】かけ算九九 の完全な定着 【方法等】75%未満の児童は 担任と算数少人数指導担 当者が補習する。6年生が 指導を補助する。2年生に ついては、1月以降専科教 員等が授業を支援し個別 の対応を図る。	かけ算九九テ スト	2年生以上 学年かけ算九九 満点率80%	7月、12月にテスト 実施。12月の満点率 3年75%、4年77%、 5年84%、6年100%	・少人数算数担当者 と管理職が補習を支 援し、本年度中に未 達成児童に補習を実 施。 ・6年生指導補助は感 染防止のため中止。	○

重点的な取組事項－2		心の健康づくり(心も体も健全育成を図る)			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
充実感・満足感の高揚と、自己肯定感(低学年)・自己有用感(高学年)の育成		児童・保護者による意識調査 肯定的回答 85%以上	関連項目の肯定的回答 85%。学年によって差が認められる。	行事や委員会活動等を充実し、児童が主体となって活躍する場を増やしたい。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
望ましい生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童・保護者による意識調査関連項目で肯定的回答 80%以上</li> <li>遅刻が継続する児童を 10 名以下にする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「渕一の子の学習のきまり」の徹底</li> <li>「生活調べ」実施や遅刻調査等結果を指導に活用</li> <li>学校だよりやメール配信システム等を活用した保護者の啓発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全学年とも肯定的回答は 80%以上。</li> <li>進んで挨拶する児童は顕著に増加</li> <li>遅刻が連続する児童が減少せず。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月の遅刻実態調査をもとに担任と生活指導部が児童指導と保護者連絡</li> </ul>	○
児童相互、児童と教員の望ましい人間関係の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童アンケート調査関連項目で肯定的回答 80%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「hyper-QU」の分析結果を学級経営に活用</li> <li>相談箱や教育相談室の活用など教育相談活動の活性化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめアンケート等の回答で、概ね 100%の児童が悩んだ時の相談相手がいると回答。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援教室との連携をより一層密にして、児童相互の望ましい人間関係づくりを支援する。</li> </ul>	○
いじめ等の早期発見と早期解決	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ等発見後 1 ヶ月以内に解決する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ防止基本方針の徹底</li> <li>「渕一版トラブル対応マニュアル」のフル活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>認知したいじめ案件、管理職への早い報告と対応が実現。</li> <li>トラブル対応マニュアルが定着</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>加害と被害の保護者と連携が迅速に実施できた。</li> </ul>	○
不登校の未然防止と早期解決	<ul style="list-style-type: none"> <li>不登校児童を 3 人以下に減少</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員間連携と、SC、SSW、チャレンジ学級との連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育相談的配慮を要する不登校児童は 12 名(保護者、関連機関と連携し対応中)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>SC や SSW 当校支援サポーターなどを活用</li> </ul>	○
特別支援教室と学級との連携推進(発達障害等の理解推進)	<ul style="list-style-type: none"> <li>学級における指導と特別支援教室の整合性と一貫性の確保に向けた校内委員会(年間 10 回以上)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内委員会での情報交換と指導方針の共有</li> <li>発達障害等に関する校内研修</li> <li>ユニバーサルデザインの活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内委員会 4 回実施。担任と特支教室担当者による日常的な連絡相談が充実。</li> <li>研修会 1 回実施</li> <li>ユニバーサルデザインの活用は学年・学級に差がみられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>放課後学習時間確保のため、校内委員会と研修会の回数を削減した。</li> <li>ユニバーサルデザイン資料の作成と活用を図り改善する。</li> </ul>	○

重点的な取組事項－3		体の健康づくり(心も体も健全育成を図る)			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
健康についての児童・保護者の意識向上と体力向上(投力)		児童・保護者による意識調査関連項目で肯定的回答80%以上	食育に関する肯定的回答は90%以上。	新しい校庭を十分に活用した体力向上の取組およびけがの防止を推進することが課題。	
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
オリンピック・パラリンピック教育の推進と充実	・児童・保護者による意識調査関連項目で肯定的回答80%以上	・運動選手による実技指導や講演会等の実施 ・福祉や国際理解に関する学習の充実	・パラリンピックマラソン選手を講師として3学年以上に授業を実施。	オリンピックレガシーとしてスポーツ選手による講演会を年間計画に位置付ける。	○
体育授業等における運動量の確保とケガの防止	・体調不良による欠席者とケガによる保健室来室者の減少	・持久走記録会に向けた練習の充実 ・コーディネーショントレーニングの導入	・ケガによる保健室来校児童は減少 ・コーディネーショントレーニングの導入は学級間で格差あり。	・校庭改修工事のため運動量確保は年間の課題となった。	○
健康づくりに関する児童と保護者の意識向上	・歯科受診率65%以上 ・児童・保護者による意識調査 食育に関する項目で肯定的回答80%以上	・メール配信システム等広報の活用による保護者の啓発 ・PTAや企業と連携した健康に関する学習の場の設定 ・栄養士・食育リーダー・養護教諭等の連携による食育指導の充実	・学校だより、保健だよりなどを活用して歯科受診等に関する計活を進めたが、歯科受診率は約43.4% ・1年生で歯科衛生士による「ハロー！6ちゃんクラス」を実施 ・食育指導年間完全実施	・食後の歯磨きのために給食時の時程を工夫したが、感染予防の観点から実施せず	△

## 6 まとめ

### (1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

#### ○「言葉の力」の育成

すべての学習の基盤となる「言葉の力」を育成するために、国語教科書の繰り返し音読に取り組んだり、身に付けてほしい言葉を一覧表にして言葉の指導を充実したりしてきました。後期には授業中の発言が豊かになり、子供たちの深い学びに繋がっています。

#### ○学習のつまずきに応じる指導

学習内容の定着につまずきがある子供には、放課後を使って補習指導を行いました。休校措置や午前授業等により予定した実施回数の確保は難しかったですが、平均点にあと一步で届くぐらいの習熟度の子供たちの力を伸ばすことができました。学習の積み残しがある児童に対する指導を充実することが課題です。

#### ○自己肯定感・自己有用感の育成

行事計画が変更を余儀なくされる中、子供たちは様々な場面を見つけ大変前向きに落ち着いて取り組みました。教員や6年生が手本となり、他学年の気持ちの良い挨拶が全体に定着しました。

#### ○体力向上とケガの防止

10月から2月まで工程が使用できなかった関係で、体力向上に向けた取組は十分に実施できませんでしたが、オリンピック・パラリンピックにかかわる学習や、スポーツ選手のお話などに触れ、運動することの大切さや楽しみを感じることができました。ケガで保健室に来校する人数は前年に比べ減少しました。

### (2) 保護者や地域へのメッセージ

新型コロナウイルス感染拡大防止に向けて、保護者や地域の皆様にはご理解ご協力、また、温かい応援をいただきましたことを心からお礼申し上げます。GIGA スクール構想に伴う全児童へのタブレット端末が導入され、授業や家庭での学習方法に大きな変化が見られました。校舎や校庭の更新工事を終え、新たな環境での学校生活となります。学校では、子供たちの学習の基盤となる「言葉の力」の育成に教員全員で取り組んでいきます。家庭学習のサポートなど今後もよろしくお願いいたします。

本校は引き続き、学力の向上・豊かな心の育成・体の健康づくりに取り組んで参ります。お力添えの程宜しく申し上げます。

### (3) その他（学校教育活動全般について）

- ・開かれた学校づくり協議会による「みどりボランティア」の皆様のサポートによる栽培活動の充実、足立生物園・桑袋ビオトープ公園の支援による腐葉土づくりやビオトープ新設計画の実施等々、SDGs「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の視点から環境教育の充実を図って参ります。
- ・開かれた学校の実現、地域家庭との連携強化に向けて、ホームページの質的改善など広報活動の充実を推進します。